

# クロオビツツハムシの兵庫県下の分布

(兵庫県甲虫相資料, 306)

高橋寿郎

クロオビツツハムシ *Physomaradina nigrifrons* (Hope, 1842) (和名は日本産昆虫総目録 I, 1989による)の兵庫県下での分布については本誌上に何回か発表している(1981, 1988, 1991, 1992)。

1993年にも新しく神戸市内で産地が見つかり採集もした。そこで今一度兵庫県下の分布状況を眺めて見たいと思う。それに入る前にこのハムシについて、現在までどのように日本で扱われてきたか、貧弱な筆者の所有文献でみてみることにしたい。浅学未熟のものがまとめたものである。誤りが多いと思われる。御指摘、御教示頂ければ幸いである。

まずこのハムシは、Baly(以下敬称略)によって長崎産で *Clythra japonica* Baly として新種記載されている(1873)。

1927年 Pic, M. は京都産で *Coptocephala kio-toensis* Pic. なる新種記載をされた。

三輪勇四郎博士は台湾産ダングラツツハムシ *Clythra nigrifrons* Hope を記録された。分布は中国、台湾となっている(1931)。さらに1938年には、*Cyaniris japonica* Baly ニホンマッコウハムシというのを記録されているが、和名と学名のみで何の解説もついていない。

中條道夫博士は、*Cyaniris* (s.str.) *japonica* (Baly) を朝鮮から記録された。分布は、Japan proper, Korea and N.China となっている(1940)。

湯浅啓温博士はクロオビサルハムシ *Cyaniris japonica* Baly として図説された(1950)。九州ではやや普通種で、7、8月ごろ多く、本州西南部にも分布すると述べられ、外国では朝鮮、済州島、華北にも分布すると解説、食草については何の記もない。

中條道夫博士は、*Gynadrophthalma japonica* Baly subsp. *manderima* Weise として図をつけて記載されており、分布は S.& W.China, Formosa となっており食草はシマサルスベリとある(1952)。

この亜種もやはり図、記載からして日本産クロオビツツハムシと同じ種と考えられる。

1961年木元新作博士は、タイプ標本を検した結果、*Clythra japonica* Baly, *Coptocephala kio-toensis* Pic, *Gynadrophthalma pallen* Baly すべて *Smaradina nigrifron* (Hope) のシノニムであると解説されている(Baly が *Gynadrophthalma pallen* として日本産で記録されているのは、"Lewis coll. Japan" とラベルがついているが、真の *pallen* ではなく、やはり *S. nigrifron* に当たると)。

同じ年の J. L. Gressitt, S. Kimoto 両博士による「中国、朝鮮のハムシ」では、上記学名の下に分類学的種名整理をしておられる。ここでの分布は日本、朝鮮、中国となっている。1963年、中根猛彦博士による原色図説が示され、食草はナツフジとなっている。分布は、本州、四国、九州、朝鮮、満州、中国、台湾。

1964年の木元新作博士の論文では、学名は上記のとおりであるが、日本での分布は本州、四国、九州、対馬となっており検視標本に福岡、大分、長崎、対馬のものはあるが、本州産が全く出ていない。

1971年大野正男教授は、学名は上記のとおりであるが、和名はクロオビナガツツハムシで示されており、同時に異名としてクロオビハムシ、クロオビサルハムシ、ニホンマッコウハムシを示され

た。

竹中英雄は1975年、カラーで図説され(種名が一字抜けている)、クロオビツツハムシとして分布は本州、四国、九州、対馬として海外の分布に言及していない。ナツフジを食べるとされている。

1980年の「中国経済昆虫誌」第十八冊にはカラーで図説されている。学名は上記のとおりである。

国内(台湾も含む)での多くの産地があげてあり、広く分布しているようである。国外としては朝鮮、日本とある。寄主植物はわりと多く示されている。

1981年の S. Kimoto, J. Gressitt 両博士による「タイ、カンボジア、ラオス、ヴェトナムのハムシ」についての論文の中で、Medvedev 博士が *Clythra nigrifrons* Hope をタイプに新属を設立した(1971)その学名で記録されている。すなわち、*Physosmargdina nigrifrons* (Hope, 1842)となる。

これ以後学名は全部これになる(Hope の記載した *Clythra nigrifrons* Hope は中国産で1842年新種記載されている。) 分布として Korea, Japan, Taiwan, China, Vietnam となっている。示された図を見るとヴェトナムの本種は斑紋の変異がわりとあるようである。

1983年木元新作博士は、その時点での分類学的整理をしておられる。その時♂♀の前脛節、前跗節の図がついている(この図は1981年の論文のものと同じである)。1984年、木元新作博士はカラーで図説された。食草はススキの類とされている。

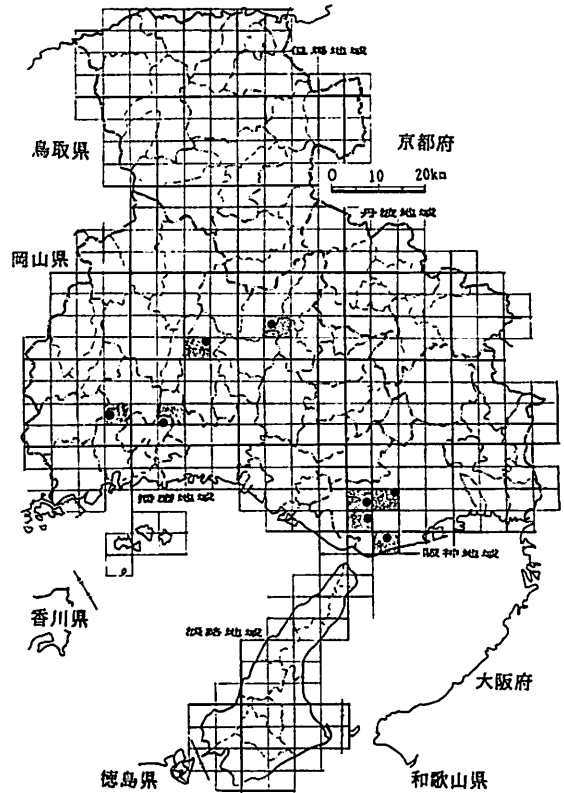
1985年の「決定版 生物大図鑑」はカラーで図説されている。執筆者が無いが竹中英雄氏ではないかと考えられる。ナツフジを食べることが知られており、ススキ類も食草として記録されているとある。分布は本州、四国、九州、石垣島でそれ以外の地について言及されていない。

1989年の「日本産昆虫総目録」によると、分布本州、四国、慶良間島、久場島、阿嘉島、石垣島、朝鮮半島、中国、台湾、ベトナムとあり、一番新しい「日本産ハムシ類幼虫・成虫分類図説」でも同じような分布になっている。

以上が筆者の所有文献で本種についてどのように扱われているかを眺めて見た。分布はかなり広く、どちらかといえば南方系の種のようなのであるが、生態などについての記録はほとんど見られない。日本での食草はイタドリ、マルバハギ、ナツフジ、ススキの類ということのようである。

さて、以上述べた文献からして、本種の分布はかなり広く、日本でも湯浅啓温博士が述べられているように九州では普通にいる種のものであり、それより南へと分布は伸びているが、個体数も多くなるのかもしれない。本州での分布はどんなものか詳しく地方誌を見ていないのでよくわからないが、意外とその記録が少ないのではと考えたりしている。

さて、兵庫県下での分布であるが、今一度今迄の記録を述べてみると次のようになる(地図参照)。



兵庫県におけるクロオビツツハムシの分布概念図

神戸市須磨区多井畑(1ex., 26.VII.1990)、西区寺谷(29.VI.1992, 多数目撃、高橋, 1992)、西区前開(4.VIII.1993, 多数目撃、蜂谷幸雄)、北区藍那(3exs., 15.VII.1993)、飾磨郡夢前町我孫子(1ex., 1.VIII.1980)、龍野市神岡町(2exs., 21.VII.1998)、相生市三湊山(7exs., 20.VII.1974)、神崎郡神崎町笠形山〔真野, 1992〕

これで見えて頂くと海岸線に近いところに分布しているハムシのようで、兵庫県での北限は今の所笠形山ということになっている。発見することができるのであればその付近を調べたら必ず何匹かを見ることができる。わりと個体数は多いのではないだろうか。兵庫県下での記録からすれば、6月29日～8月4日の間に得られている。ということは、成虫を野外で見られるのは、6月下旬から8月上旬ということになりそうである。真夏のハムシといえそうで、南方系のハムシということはずける。恐らく、県下の海岸線に近いところでは、かなり広く分布しているハムシではないかと考える。

<参考文献>

- Baly, S. (1873) Catalogue of the Phytophagous Coleoptera of Japan, with descriptions of the species new to science.  
Trans. ent. Soc. London 1873-Part. I:79-80.
- Chūjō, M. (1940) Chrysomelid-Beetles from Korea (I).  
Trans. Nat. Hist. Soc. Formosa 30(204/205):359
- Chūjō, M. (1952) A Taxonomic Study on the Chrysomelidae (Insecta-Coleoptera) from Formosa. Part. V. Subfamily Clytrinae.  
Tech. Bull. Kagawa Agr. Coll. 4(2):78-80
- J. L. Gressitt & S. Kimoto (1961) The Chrysomelidae (Coleop.) of China and Korea, Part. 1. Pacific Insects Monog. 1A:99-101.
- 林 長閑編 (1985) 決定版 生物大図鑑 昆虫 II 甲虫, p.246. (世界文化社・東京)
- T. Jugnjie, Y. Peiyu, Li Hongxing, W. Shuyong, J. Shegqlao (1980) Economic Insect Fauna of China.  
Fasc. 18. Coleoptera: Chrysomeloidea(1). p.163-164, pl.15, f.142.
- S. Kimoto (1961) A Revisional Note on the type specimens of Japanese Chrysomelidae which are preserved in the Museums of Europe and the United States. I.  
Kontyu 29(3):163
- S. Kimoto (1964) The Chrysomelidae of Japan and the Ryuku Islands, II.  
Jour. Fac. Agr. Kyushu Univ. 13(1):137
- S. Kimoto & J. L. Gressitt (1981) Chrysomelidae (Coleoptera) of Thailand, Cambodia, Laos and Vietnam II. Clytrinae, Cryptocephalinae, Chlamisinae, Lamprosomatinae and Chrysomelidae.  
Pacific Insects 23(3/4):313-314, Fig.12d, g.18.
- S. Kimoto (1983) Revisional Study on Megalopodinae, Donacininae and Clytrinae of Japan (Coleoptera: Chrysomelidae)  
Ent. Rev. Japan 38(1):16-17, Figs.6a,d.
- 木元新作 (1984) 原色日本甲虫図鑑(IV)  
pl.30, f.25, p.158. (保育社・大阪)
- 木元新作 (1987) 検索表による日本のハムシ類 (XI)
- 木元新作 (1989) 日本産昆虫総目録・I.  
p.468(九州大学農学部昆虫学教室刊)

木元新作・滝沢春雄 (1994) 日本産ハムシ類幼虫・成虫類図説. p.122, 277. pl.8, f.4, pl.72, f.13, 14. (東海大学出版会・東京)

三輪勇四郎 (1931) 台湾産昆虫目録(鞘翅目). p.185. (台湾總督府中央研究所刊)

三輪勇四郎 (1938) 日本甲虫分類学. p.176. (西ヶ原刊行会・東京)

中根猛彦 (1963) 原色昆虫大図鑑 第2巻(甲虫篇). pl.162, f.13, p.324 (北隆館・東京)

大野正男 (1971) 日本産ハムシ科名彙.  
東洋大学紀要・教養課程篇(自然科学)第13号:40.

Pic, M (1927) *Coptocephala kiotoensis* n.sp. L'Echange, Rev. Linn. 43:7.

高橋寿郎 (1981) 兵庫県のナガツツハムシ  
きべりはむし 9(1):8

高橋寿郎 (1988) ナガツツハムシの記録  
きべりはむし 16(2):54

高橋寿郎 (1991) クロオビツツハムシ神戸市に産す  
きべりはむし 19(1):31

高橋寿郎 (1992) クロオビツツハムシの新産地  
きべりはむし 20(2):55

竹中英雄 (1975) 学研中高生図鑑 昆虫II 甲虫.  
p.142, 248. (学研・東京)

湯浅啓温 (1950) 日本昆虫図鑑 改定版.  
p.1191, f.3424 (北隆館・東京)

(TAKAHASHI TOSHIO 神戸市兵庫区氷室町1-44)

---

## コバンムシを神戸市西区で採集

近藤 伸一

---

コバンムシ *Ilyocoris exclamationis* Scottは浮葉植物の多い深い池や沼に生息する。近年激減した種である。昨年神戸市西区内の水生昆虫を調査していて偶然採集した。採集した池は200m<sup>2</sup>程度の小さい池で、周囲は農地と道路に取り囲まれ水辺までススキやセイタカアワダチソウなどの背の高い草が生い茂り、水面はヒシで覆われていた。

コバンムシの他にはミズムシが多く、ヒメミズカマキリ、キベリクロヒメゲンゴロウ、ヒメガムシなども同時に採集した。

15.IX.1994 2exs. 神戸市西区神出町古神

近藤伸一

(KONDOH SHINICHI 神戸市西区岩岡町岩岡619-57)

---

## アカエゾゼミの採集記録

近藤 伸一

---

県下では比較的採集記録の少ないアカエゾゼミを美方郡で採集しているので、木下賢司氏の採集記録と併せて報告する。

20.VII.1989 1♀ 美方郡村岡町板仕野

近藤伸一

午後3時頃小さな溪流にかかった橋の欄干にとまっていた。

26.VI.1986 1♂ 美方郡温泉町上山高原

木下賢司

(KONDOH SHINICHI 神戸市西区岩岡町岩岡619-57)